

事業完了（廃止等）報告書

調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ～ 平成31年3月15日
調査研究事項	<p>《委託研究Ⅲ》</p> <p>ウ. 教育課程・指導上の工夫に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 母語を日本語としない生徒への日本語指導を踏まえた教科指導法と授業の展開方法全般について <p>オ. 教職員の配置・研修に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夜間学級専門スタッフの配置の在り方について
調査研究のねらい	<p>さまざまな国籍の生徒が在籍し、日本語の習熟度や学習に対する取り組み方が異なる中での教科指導の在り方や学習内容についての研究をする。多様な生徒の受け入れの拡大が図れるようにするためにも、生徒一人一人の状況に応じた効果的な指導方法（個々の学力向上、ICT機器の有効活用等）を調査研究の目的とする。</p> <p>また、指導をサポートする夜間学級専門スタッフの配置の在り方及び効果的な活用について研究する。</p>
調査研究の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒一人一人の状況に応じた効果的な指導方法や教材づくり ・ タブレット端末等ICTの活用を通じた主体的対話的な学びの実現へ効果が認められた。活用の時期・学習内容等の検討は学年初めに行うことが必要である。 ・ 国語以外の各教科指導における日本語習得に工夫をした。 ・ 生徒は授業や学校生活に対して満足している様子である。 <p>生徒のニーズに合った授業展開ができていると考えられる。学ぶことの楽しさを理解できるように授業を工夫することで、学習意欲がさらに増した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の実態に合った特別の教育課程を実施。教員は本務教員4名・講師6名。個々の生徒に細かく対応できるようT.T体制で、習熟度に応じたグループ編成の授業を行っている。その他、学び直しの生徒の時間割編成にも工夫をしている。夜間学級専門スタッフの配置はとても効果的であった。 <p>夜間学級専門スタッフの配置による生徒の実態に合った支援（日本語指導、各国の生活習慣等を理解した上での指導）ができた。</p> <p style="text-align: center;">※ 別紙報告書参照</p>

別紙

1 生徒の実態

26名が在籍しており、多くは15歳以上の日本語を母語としない生徒である。諸般の事情により義務教育未修了者が大多数で、本年度は、既卒者で学習する機会がなかった者（学び直し）も2名いる。

国籍別では、6ヶ国から集まっており、アフガニスタン、ネパールが約54%を占めている。年齢は10代から40代の幅だが、10代の生徒が80%を占める。出身国での修学年数の違い、日本語習得状況や学ぶ目的の違いなど多様な生徒がいる。

2 調査研究の目的

さまざまな国籍の生徒が在籍し、日本語の習熟度や学習に対する取り組み方が異なる中での教科指導の在り方や学習内容についての研究をする。多様な生徒の受け入れの拡大が図れるようにするためにも、生徒一人一人の状況に応じた効果的な指導方法（個々の学力向上、ICT機器の有効活用等）を調査研究の目的とする。また、指導をサポートする夜間学級専門スタッフの配置の在り方及び効果的な活用について研究する。

3 調査研究の内容

《委託研究Ⅲ》

ウ. 教育課程・指導上の工夫に関すること

- ・母語を日本語としない生徒への日本語指導を踏まえた教科指導法と授業の展開方法全般について

オ. 教職員の配置・研修に関すること

- ・夜間学級専門スタッフの配置の在り方について

4 本年度の取組

ウについて

- ・生徒一人一人の状況に応じた効果的な指導方法や教材づくり
（理数教科の学力向上を中心として）
- ・タブレット端末等 ICT の活用を通じた主体的・対話的な学びの実現
（外国籍の生徒が多く在籍するため、学習への興味・関心を高めたり、知識理解の習得に ICT を効果的に活用した授業展開で成果を上げる）

オについて

- ・国語以外の各教科指導における日本語習得の工夫
- ・夜間学級専門スタッフの配置による生徒の実態に合った支援の推進
（教育課程を実践していく上で教科指導＋日本語指導は重要な要素である。日本語習得レベルに応じた学習支援により、各教科の学習理解の定着を図ることが求められる。）

(1) 教員研修

- ・ 6月 「卒業後の進路追跡調査に関する研修」
卒業生の高校での生活状況・外国籍生徒の受け入れと卒業後の進路状況等について情報交換をしてきた。〈追跡調査〉
また、「県立高校の定時制」についての理解を深めた。
- ・ 10月 「外国人の在留管理制度について」
外国人の在留状況・在留管理制度（ビザの種類や取得方法等）と在留外国人が直面する課題や学習・生活指導についての理解を深めた。
- ・ 11月 「来日するアフガニスタンの生徒の現状と生徒理解」について
四街道市のアフガニスタン人のコミュニティ現状、日本の中学校での適切な学習指導と生活指導（生活習慣、宗教上の問題、規範意識等）についての理解を深めた。
- ・ 1月 「日本で暮らすアフガニスタンの子どもの教育」について
国際ボランティア会のアフガニスタンでの活動と昨今のアフガニスタンの子どもの教育事情、日本の学校での適切な教育についての理解を深めた。
- ・ 2月 「夜間中学の学び」について
映画「学校」（山田洋次監督）のモデル、松崎運之助氏を招聘。体験談や夜間学級の職員に伝えたいこと、大洲中学校設立に関わった経緯、映画のエピソードなど講話から「学ぶ」ということを考えた。

(2) 授業実践

本校夜間学級では、日本語学級は設置していない。日本語担当教師が配置されていないため、各教科指導の中で日本語指導を行いつつ授業展開をしている。

- ① 自作の教材を作成するにあたり、漢字にルビをふり日本語を分かりやすくする。
 - ▶ 数学では、習熟度別3クラス（各学級2名のTT体制）のきめ細かな授業を展開。「図形」をテーマに研究授業を行った。用語の理解にルビ・英語を補助的に使って「ことば」を正しく言えるようにし、数学の内容に迫った。

- ② 視覚で対応できる授業（理科の実験、社会のVTR教材、タブレットの活用、日本語教材など）から理解を深める実践を展開した。
- ▶ 社会では、タブレットを活用した授業を初めて行った。
 - ▶ 理科の授業では、「熱気球」をテーマに実験を含めた一斉授業の展開・研究授業を行った。熱気球をグループ毎に作り、体育館で飛ばす実験をした。説明には、視聴覚機器・パワーポイントの活用をした。
- ③ 音楽の授業では、歌詞を優しい日本語に置き換え、体全体で表現して伝える活動を取り入れた。

5 成果と課題

(1) 成果

アンケート調査などから、生徒は授業や学校生活に対して満足している様子である。生徒のニーズに合った授業展開ができていると考えられる。学ぶことの楽しさを理解できるように授業を工夫することで、学習意欲がさらに増した。

生徒の実態に合った特別の教育課程を実施している。教員は本務教員4名・講師6名。個々の生徒に細かく対応できるようT.T体制で、習熟度に応じたグループ編成の授業を行っている。その他、学び直しの生徒の時間割編成にも工夫をしている。夜間学級専門スタッフの配置はとても効果的であった。

(2) 課題

- ・国での教育環境により学力差は大きい。小学校の学習内容が理解されていない生徒が多くいる。習熟度別クラス・少人数でTT体制をとり、きめ細かい指導をしている。よりわかりやすい授業を展開するための方策として、視覚に訴える教材の開発やICTの効果的な活用が必須である。
- ・生徒が自ら考え、何を学ぶかを考えさせる方法も継続して研修する必要がある。
- ・スマートフォンで何でもすぐに調べられるが、生徒指導上の問題がある。
タブレットの活用した授業は、11～1月の3か月の利用であったが、教科のどの学習内容でいつ使用するかの見通しを次年度は年度当初に考えたい。
- ・学び直しの希望者が増えてきているので、ニーズに合わせた授業をどう組むかが課題である。